

令和7年度指定管理者業務モニタリング評価表

施 設 名	豊橋市休日夜間急病診療所
所 在 地	豊橋市中野町字中原100番地
指 定 管 理 者	一般社団法人豊橋市医師会
指 定 期 間	令和6年4月1日から令和10年3月31日
担 当 課	健康部 保健医療企画課(0532-39-9111)
令和6年度指定管理料 (決算)	359, 554千円
令和7年度指定管理料 (決算見込)	358, 531千円

項 目		基準	評価				
管 理 業 務 の 実 施 状 況 に 関 する 項 目	維持管理業務の実施状況	仕様書等に基づき施設の適切な維持管理業務が行われているか。	運営業務のみのため、維持管理業務は実施していない。				
	自主事業等の実施状況	事業計画書等に基づいた施設の設置目的に沿った事業が実施されているか。	事業計画書に基づき、救急患者に対して適切な医療を行っている。				
	人員配置等の業務体制	仕様書等で定めた人員配置がなされているか。また、労働環境が関係法令等を遵守した適正なものとなっているか。	仕様書に基づき、職員配置表のとおり人員配置を行っている。労働環境についても関係法令を遵守し、適切なものとなっている。				
	職員研修の実施状況	事業計画書等に従い職員研修が実施されているか。	事業計画書に提案されている研修が計画的に実施されている。				
	個人情報保護の措置状況	協定書の個人情報保護規定に基づき、個人情報が適正に管理されているか。	協定書の個人情報保護の規定に基づき、適正に個人情報が管理されており、職員に対する周知も徹底している。				
	緊急時対応への取組状況	緊急時の連絡体制があり、かつ訓練等が実施されているか。	連絡網の整備がされている。				
施 設 利 用 状 況 に 関 する 事 項	施設利用の許可状況	利用者の公平な選考を確保しているか。	診療する順番は受診者の重症度等を考慮するが、基本的には、受け付け順で公平に受診できるようにしている。				
	施設利用状況	前年度と比較した利用者数等についてはどうなっているか。 (利用状況を数値化して令和6・7年度を比較)		R5年度	R6年度	R7年度	比較(R7-R6)
			開館日数	366日	365日	365日	0日
			利用者数				
			a. 内科	9,170人	8,935人	7,889人	▲ 1,046人
			b. 小児科	8,496人	6,603人	6,257人	▲ 346人
			【要因分析】 令和6年度と比較し、感染症の流行が穏やかであったことに加え、適正受診の普及啓発により、かかりつけ医への受診を促しているため、利用者数(患者数)が減少している。				
	サービス向上等への取組状況	施設PRやサービス向上の取組みは実施されているか。	豊橋市医師会のホームページで診療所のPRをしている。				
	利用者満足度調査結果	利用者への満足度調査(アンケート)等を実施し、業務改善を実施しているか。(指定管理者が自ら行ったアンケート結果に基づく)	救急医療施設であるため、利用者が受診される際の状況として、アンケート等の調査は向かないと思われるので実施していない。				
	意見箱等	意見箱等に寄せられた具体的な意見	内 容			対 応	
未設置							
苦情・トラブルへの対応	利用者の苦情等への対応は適切であったか。	適切かつ迅速に対応している。					

管理 経費 等 の 収 支 状 況 等	経費等の執行管理状況	資金の適正な管理と経理内容の明確化が実施されているか。	資金の管理は、指定管理料と他業務との会計を分けて、適切に行われている。			
	経費等の収支状況	収支状況が収支計画と乖離していなかったか。	高額な新薬開発による医薬材料費の増、感染症流行時の診療体制強化による委託料の増等により、指定管理料の増額変更に至った。			
		収支計算書	収入の部		支出の部	
			指定管理料	358,531千円	指定管理事業費	358,531千円
			利用料金収入			
			自主事業収入			
	その他収入					
		収支差額		0千円		

指定管理者の提案事業の実施状況	なし
-----------------	----

当年度の対応方針	今後も安定した医療サービスを提供するために、引き続き指定管理者との情報共有を行うとともに、小児科医の高齢化が進んできているため、現行の内科・小児科の診療体制の維持について検討していく必要がある。
----------	---

指定管理者の自己評価	・基本協定書、仕様書に基づき管理運営を行った。 ・小児科医の高齢化が進んできているため、現行の内科・小児科の診療体制がいつまで維持できるかが大きな課題となっている。また、医師の働き方改革が進む中、大学病院からの派遣医師の対応も今後の大きな課題である。 ・新型コロナウイルス・インフルエンザ感染症の感染対策を行いながら患者への対応を行うことができた。 ・感染症流行時にコールセンターの設置やウェイティングシステムを活用することで、受診者の待機時間を大幅に削減。救急医療としての役割を果たすことができた。
------------	--

総合評価	令和7年度の指定管理業務については、協定書、仕様書等に基づき適切に管理されている。医療を取り巻く環境が変化する中、今後も安定した医療サービスを提供する必要がある。令和7年度は感染症流行時に診療体制を強化することで、適正な医療体制を確保できた。今後も指定管理者との意見交換及び情報の共有を行い、費用対効果を考慮した対応を検討していく必要がある。
------	---

次年度の対応方針	今後も安定した医療サービスを提供するために、引き続き指定管理者との情報共有を行うとともに、小児科医の高齢化が進んできているため、現行の内科・小児科の診療体制の維持について検討していく必要がある。 また、感染症流行時に適切な医療体制を確保できるよう、対応を求める。
----------	--